

それを導いてゐる。彼が負ふ視覺の深い意志が彼において現れるのである。意志が現れ盡すべき時はない。現れ盡す時、即ち意志せざる時をもつ意志は眞の意志ではない。視覺が盡きる時はない。永久にそれは「美術家」の背後でなければならぬ。云ひかへれば、彼は永久に、彼れの意識に上らない背後を負はねばならない。刻々に彼に現れ来るものは、彼れの意識を超えたもの、即ち「豫期」しないものである。常に一つの新たなものが彼の作品として成立するのである。それは一つの「既に作られてあるもの」とは異なる一つのものである。一枚の繪は、すべて一つの藝術作品は——それが優劣の批判を伴つて見られることの、更により深く根源的な事實として成立するのである。(終)

前回正誤

八頁、七行、肖像を畫く

作風を寫す

一〇頁、

つむがれ

つぐまれ

彙報

美學會例會

十月十八日(水)午後六時半 於樂友會館

室町時代水墨畫に於ける空間性の展開 源 豐宗氏

寄贈雜誌

八月號 理想(七、八) 宗教研究(六ノ二) 心理學研究(十八

ノ五、六) 法華、一、經濟論叢(五十八ノ六)

九月號 回教週報、基督敎研究、一、丁酉倫理、一橋論叢、

文化

十月號 丁酉倫理、理想(九、十) 哲學雜誌(九、十) 法學、一、

十一月號 回教週報、丁酉倫理、哲學雜誌(十一、十二)